

令和年４度 岩城小学校 学校関係者評価集計表

結果： 4＝あてはまる 3＝おおむねあてはまる 2＝どちらかといえばあてはまらない 1＝あてはまらない

評定： A＝対象の80%以上が肯定 B＝対象の70%以上が肯定 C＝対象の60%以上が肯定 D＝対象の60%未満が肯定

項 目		評価資料		アンケート結果(%)					評定	・評価の分析、考察 ○改善策		今後の改善の方策 (学校関係者評価委員から)
		4	3	2	1	無						
教育目標	「夢に向かって ともに 励む児童の育成」の達成 に向けて、具体的に教育 改善している。	教職員	20	80	0	0	0	A	・ 肯定的な意見が多い。今後も、教育目標の達成に向けての具体的な取組を話し合い 実践していきたい。また、取組について保護者や地域の方とも話し合いながら進めてい けるようにしたい。			
		児童										
		保護者	30	52	10	2	6					
		地域住民	43	43	0	0	14					
学力・ 学習習慣	基礎・基本の充実を図り、 確かな学力の定着・ 向上に向けて取り組んで いる。	教職員	60	40	0	0	0	D	・ 宿題をきちんとしている。家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者 がいる。 ○懇談会などで、家庭の様子を聞きながら、連携して児童の指導に当たる。家庭学習 の定着に努める。 ○自主的に学習に取り組むような自主勉強の進め方を工夫する。 ・ 自分の考えを人前で発表することが苦手な児童が多い。 ○学年の発達段階に応じた表現の仕方が身に付くよう指導を続ける。また、表現朝会 など、全校の前での発表する場を設け、自信を持たせる。 ○授業の中で、ペア学習や小集団学習を積極的に取り入れ、自分の考えを友達に伝え る楽しさを体感させる。 ・ 進んで読書する児童が少ない。 ○読み聞かせボランティアの方の読み聞かせを児童は楽しんでいる。また、学校司書 と連携し、ブックトークや図書室の環境整備に取り組んだ。今後も連携しながら本へ の関心を高めていきたい。さらに、読書の習慣化を図るために、朝読書の時間の見直 し、図書室利用の工夫、読書を宿題とし保護者と連携するなど手立てを考え来年度か ら実施していく。	・ 子どもたちがよく読んでい る本を把握し、子どもたちの 興味のある本を図書室に増や すと、本を進んで借りるよう になるのではないかと。 ・ 読み聞かせの後に、本を借 りるようにしてはどうか。 ・ 学級文庫の本を充実させて はどうか。		
		児童	47	45	7	1	0					
		保護者	34	50	6	4	6					
		地域住民	29	43	0	0	28					
	望ましい学習習慣・学習 態度（家庭学習も含む） を育成している。	教職員	30	70	0	0	0	A				
		児童	64	28	6	2	0					
		保護者	26	48	14	8	4					
		地域住民										
	児童は、発表の仕方が身 に付いている。	教職員	10	70	20	0	0	B				
		児童	47	35	14	4	0					
		保護者	22	46	24	4	4					
		地域住民										
	児童は、読書に親しんで いる。	教職員	0	22	33	45	0	D				
		児童	39	31	18	12	0					
		保護者	28	14	34	22	2					
		地域住民										
学習指導	指導法や指導体制の工 夫・改善に努め、分かる 授業づくりに取り組んで いる。	教職員	40	60	0	0	0	A	・ 全教職員で研修を繰り返し確かな学力の定着に向けて取り組んでいる。しかし、県 の学力調査の結果から、学力の２極化が見られ、学習内容が難しいと感じている児童 がいる。 ○一人一人の学習の理解を見取りながら個別指導に当たったり、ＩＣＴを活用し可視 化することで学習内容が理解しやすいような手立てを工夫していく。 ・ 本年度は、地域の方のご理解ご協力のおかげで、校外学習の機会に恵まれた。 ○児童の興味や関心を高め、より主体的な深い学びになるように地域の人と連携を図 りながら進めていきたい。 ○他の地域についても学習を広げていくように考えていく。			
		児童	81	15	4	0	0					
		保護者	48	40	2	2	8					
		地域住民	64	36	0	0	0					
	学習の充実のために、自 然・文化・人など、地域 の特色を生かしている。	教職員	60	40	0	0	0	A				
		児童	56	30	13	1	0					
		保護者	58	36	0	2	4					
		地域住民	64	29	7	0	0					
心の教育	望ましい人間関係づくり ができています。	教職員	44	56	0	0	0	A	・ 児童は、友達と仲よく遊んだり、活動したりしている。集団活動や縦割り班活動の 様子や児童の感想などをホームページや学年だよりを通じて保護者に伝えていく必要 がある。 ・ 友達のよさを見つけることが苦手と感じている児童がいる。 ○帰りの会でよいところ発表をするなど学年に応じて、互いのよさを認め合う場を今 後も続ける。また、月に一回実施している人権・同和教育についての教職員研修を充 実させ、広めていきたい。			
		児童	88	12	0	0	0					
		保護者	48	32	6	2	12					
		地域住民										
	児童が命の大切さを実感 できる教育の充実が図れ ている。	教職員	44	56	0	0	0	A				
		児童	85	14	0	1	0					
		保護者										
		地域住民										
	人権・同和教育を計画的 に実践している。	教職員	44	56	0	0	0	A				
		児童	78	18	3	1	0					
		保護者	42	50	4	0	4					
		地域住民	57	22	7	0	14					
学校体育	体育の時間や遊びなどを を通して、体力づくりを進 めている。	教職員	60	40	0	0	0	A	・ 休み時間に運動場で元気に遊んだり、課外活動で積極的に運動してりする児童が多 い。休み時間に教室で過ごしている児童もいるが、体育の時間では、様々な運動に楽 しく取り組んでいる。			
		児童	73	23	4	0	0					
		保護者	60	40	0	0	0					
		地域住民										
特別活動	学校行事等は、創意工夫 を生かし、充実してい る。	教職員	40	60	0	0	0	A	・ 保護者や地域の方の協力のおかげで学校行事を実施することができた。今後も、充 実した内容になるよう見直しをしながら取り組んでいきたい。			
		児童										
		保護者	56	42	0	0	2					
		地域住民										
生徒指導	児童一人一人にアンケー トや教育相談などを実施 し、全校職員が協力し て、問題の早期発見・早 期対応が図れている。	教職員	50	50	0	0	0	A	・ 毎月のアンケートでは、全校児童が楽しいと答えているが、困ったことがあっても 誰にも相談しない児童がいることが分かった。 ○「相談したいことはありますか」というアンケート項目を見逃さず、これからもす ぐに声を掛けたい。 ○全員が心の相談員と話せるようにしている。今後も教育相談、日記指導、日常の会 話などを通して日頃から児童とコミュニケーションをとり、問題の早期発見に努め たい。また、何か変化があった時は、児童に寄り添いながら対応していきたい。			
		児童	55	29	11	5	0					
		保護者	46	40	10	2	2					
		地域住民	57	36	0	0	7					
基本的な 生活習慣	基本的な生活習慣の育成 ができています。	教職員	40	60	0	0	0	A	・ 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いている。高学年の児童に夜更かしをし ている児童が見られるので、規則正しい生活週間の大切さを知らせていく必要があ る。 ・ 教職員、児童、地域の方と保護者の評価に差がある。 ○挨拶運動などを通して、誰に対しても自分から挨拶ができるよう引き続き取り組 み、挨拶をすることが当たり前になるようにさせたい。			
		児童	55	31	12	2	0					
		保護者	44	42	8	6	0					
		地域住民										
	進んで気持ちのよいあい さつができています。	教職員	30	70	0	0	0	A				
		児童	68	27	4	1	0					
		保護者	30	44	24	2	0					
		地域住民	84	8	8	0	0					
進路指導	将来の夢や希望につい て、話したり、考えたり する機会を設けている。	教職員	30	40	30	0	0	B	・ 将来どんなことをしたいか考える機会が持てていない児童がいる。 ○本年度、５、６年生は、リモートでキャリア教育を実施したところ、一人一人が自 分の将来について考えることができた。今後は、家族や地域の方など身近な人の話を 聞く機会を持ちたい。 ○全ての学年で自分の夢や将来について考える機会が持てるようキャリア教育に取り 組む必要がある。			
		児童	60	24	12	4	0					
		保護者	34	36	26	2	2					
		地域住民										
学校安全	非常時に適切に対応でき るような訓練や指導がで きている。	教職員	50	50	0	0	0	A	・ 学年が上がるにつれ非常時の対応の仕方が理解できている。毎年指導を続け、低学 年児童への理解を図りたい。			
		児童	53	35	7	5	0					
		保護者	50	40	2	0	8					
		地域住民	72	21	0	0	7					
特別支援 教育	コーディネーターを中心 に、特別支援体制を整 え、協力して支援してい る。	教職員	40	60	0	0	0	A	・ 校内体制を整えたり、特別支援教育の研修を進めたりしている。今後も、全教職員 が協力しながら一人一人の個性を大切にしながら個に応じた適切な指導ができるよう に取り組んでいきたい。			
		児童										
		保護者	34	42	8	4	12					
		地域住民										
保護者・ 地域との 連携	保護者や地域の人々との ふれあいを通して、信頼 関係を確立している。	教職員	50	50	0	0	0	A	・ 保護者との連絡を密にし、人間関係の構築に努めていきたい。			
		児童										
		保護者	42	40	10	6	2					
		地域住民										
	ホームページや「学校だ より」「学級だより」等 の内容は適切である。	教職員	60	40	0	0	0	A				
		児童										
		保護者	42	48	6	0	4					
		地域住民										
施設設備	校舎内外の美化が充実し ている。	教職員	40	50	10	0	0	A	・ 校舎内の整理整頓に心掛けたい。 ・ 週に２日、掃除の時間に校庭の草抜きや落ち葉拾いをした。また、今年も夏の環境 整備に多くの方が参加してくださり有難かった。			
		児童	86	12	2	0	0					
		保護者	44	44	6	4	2					
		地域住民	86	14	0	0	0					